



さくら

2017春

発行
社会福祉法人 東桜会
第55号

〒420-0962
静岡県葵区東 527 番地の 1
特別養護老人ホーム 麻機園
TEL 054(247)8739
FAX 054(247)8640

麻機園の開園記念日



4月1日麻機園は創立29年を迎えました！

麻機園では開園記念日として、開園記念日を祝う会を行いました。多くの入所者が参加してくださいました。新年度を迎え、園長からの挨拶の後、新人職員を皆で迎えました。今年の新人職員は18歳の方が二人もいるので入所者の方も若いパワーを感じてもらえたのではないのでしょうか。

アトラクションでは職員による“麻機大喜利”が行われました。笑点の聴き慣れたテーマソングが流れると自然と入所者の皆さんも拍手で舞台袖から入場する出演者を迎えていました。今年は酉年という事で鳥に関連したお題や春の桜でお花見に関連したお題などで大喜利が披露されると、声を出して笑ったり拍手をしたりと入所者の皆さんに楽しんでいただきました。

昼食会ではお祝い膳と共にお酒も一緒に提供され、普段はあまり出ることのないお酒に「少し飲んでみようかな～」という女性入所者や「やっぱり酒はうまい」という男性入所者がおり、久しぶりのほろ酔い気分を味わっていただきました。今年の祝い膳は稲荷寿司や太巻き、茶碗蒸しといった入所者の好きなものを集めた献立にしました。入所者の方々は「美味しい」と言いながら口いっぱい頬張っていました。



午後からは正面玄関で餅つきを行いました。園長はじめ職員が餅をつくたびに、職員と入所者が一緒になって「ヨイショ、ヨイショ」と声がかかり、新人職員が杵を振り上げると「頑張って」と声があがりました。「職員さんみんなたぐましいね。」「昔はこうして親戚みんなでついたね。」「懐かしいね。」「うちは電気でやっちゃっていたよ。」「初めて見た」と昔のことを話している中、「私に、早く杵を貸してちょうだい。」と叫ぶ、元気な方もいらっしゃいました。餅つきを見た後は、つくたてのお餅をお汁粉ときな粉で食しました。「甘くておいしい」「お餅が柔らかい」と皆さん舌鼓を打っていました。今年の開園記念日も入所者に楽しく過ごして頂きました。



麻機園 寮母 漆畑佳奈

「21年目の春」です



ケアハウス桜花は設立から丸20年、平成29年4月1日に20回目の開園記念日を迎えることができました。例年のこの時期は桜花の前は桜吹雪が舞っていますが、今年は寒さが残り桜の花はまだつぼみのまま。桜はこれからの楽しみとして、毎年恒例の開園記念日昼食会を行いました。お祝いだからとビールやジュースを手にして、施設長が音頭をとって乾杯！それぞれに会話を弾ませ楽しい時間をすごしました。



ケアハウス桜花 生活相談員 佐藤勝洋

デイサービス通信

～我らの人生これからだ～

3月、オカリナの演奏グループ『レディ5』さんが来てくださり、演奏会を行いました。

利用者全員に歌詞カードが用意され、オカリナの演奏に併せて皆で唄いました。「ふるさと」「春の小川」等の童謡や「瀬戸の花嫁」「北国の春」等の歌謡曲を14曲演奏していただき、最後は、利用者のアンコールに応え、「川の流れのように」を演奏していただきました。

利用者からは、「オカリナのやさしい音色を聴いて、懐かしく穏やかな気持ちになりました。」「皆で唄えてとても気持ちよく、楽しい時間を過ごせました。」との感想がきかれました。



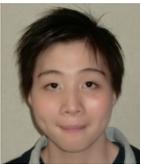
麻機園デイサービス 生活相談員 望月昭子

新入職員紹介



4月から麻機園で働くことになりました。私の心がけていることは、どんな時も笑顔でいる事です。介護の仕事は未経験なので入所者の方々への対応がうまく出来なくて先輩たちにたくさん迷惑をかけるかもしれないですが頑張っけて覚えていきたいです。よろしくお願いします。

麻機園 寮母 浅井七映



私は3月16日から麻機園で働かせていただいています。まだ仕事など慣れていませんが入所者の方々と明るく笑顔で表情豊かにしていける、高校3年間で学んだ「人の役に立つ」ことを麻機園で生かしていけるよう頑張ります。これから宜しくお願いします。

麻機園 寮母 望月鮎奈



麻機園には介護職やケアマネージャーとして16年程勤めていましたが、1年お休みし又4月より地域連携に関わる仕事をさせて頂く事になりました。私自身も麻機地区に住んでおり、豊かな自然環境と温厚な人柄が大好きです。

東桜会が地域の方々のお役に立てるよう、一歩ずつ進んでいきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

麻機園 生活相談員 芦口益枝

介護職になって一年

山崎優太

私は麻機園に就職して一年が経ちました。一年前は入所している方の名前を覚えることに必死。他にも一日の生活の流れや、やらなければならないことなど様々なことを覚えなければならぬことがたくさんありました。先輩についていこうと精一杯がんばるなかで失敗が多く、そのたびに注意を受け、指導されました。しかしその指導のおかげで成長できたと思えます。

介護という仕事を理解し始めると「大変そうだな。手伝ってあげよう。やってあげよう」との思いは介助者の自己満足であり、入所者にとっては「よけいなお世話」と思われることもあり、また、介助者が全部を手伝ってしまうことで入所者の「出来ること」を減らしてしまうことに注意が必要だと理解が深まり、入所者の身体状態や生活習慣などを把握し、何を手伝えれば良いのかを判断しなければいけないことを学びました。

そして、同じ頃に入所者から「山崎君 おはよう」「仕事が様になってきたよ」などと声を掛けてもらえるようになり、そんな言葉を聞くたびに「認めてもらえたかな」と感じると嬉しく、また、「ありがとう」と聞くと、「この仕事を選んで良かった」と思えるようになりました。こうして一年を振り返ると長いようで本当に短い一年でした。

これからも先輩職員を見習い、いろいろなことを覚え、学び、一年後には先輩職員と同じように仕事が出来るように頑張ります。